波浪共振型消波工法 分割式直立消波函塊「トリウォール」

平成21年2月
株式会社 三柱

トリウォールとは

従来にない消波原理により優れた消波機能と、経済性を両立した新型の消波構造物です。

構造は、下段用・中段用・上段用のブロックを積み上げる直積形式を取っています。

基本構造

トリウォール 標準タイプ
(広周期帯対応)

トリウォールシングルタイプ
(単一周期用 コスト縮減優先)

水面より上部の前面に
に空隙のないカーテン
形式の構造体です

消波原理

⑤渦の仕事=波エネルギーの逸散→反射波高の低減

反射率の特性

反射率の特性

堤体幅4mのときのトリウォールとCS
ブロック(従来技術)の適応条件(反
射率0.5以下)の目安

水深 \ 周期	2	3	4	5	6
3	Blue	Blue	Blue	Blue	Blue
4	Blue	Blue	Blue	Blue	Blue
5	Blue	Blue			
6					
7					
8					
9					
10					
11					

CSブロック H15-5-0型

水深 \ 周期	2	3	4	5	6
3					
4				Blue	Blue
5		Blue	Blue	Blue	Blue
6	Blue	Blue	Blue		
7	Blue	Blue			
8	Blue				
9					
10					
11					

トリウォールシングルタイプ
NS-0- * * 型

反射率の特性(2)

反射率の特性(3)

数値計算による再現性

模型縮尺S=1/12とS=1/18の実験結果と理論算定

数値計算による機能設計

シングルタイプの場合

潮位変動による水深の変化に対し、常時反射率が0.5以下となるように断面を設定

数値計算による機能設計

標準タイプの場合

航跡波から荒天時の波浪までの全周期帯で反射率を0.5以下となるように断面を設定した事例

経済性

トリウォールを使用した断面
L=5.0m N=0.8個/m

直立消波ブロック(従来技術)を使用した断面
L=1.6m N=2.5個/m

直接工事費比較

509,000円/m

645,000円/m

= 78.9%

20%以上のコスト縮減が可能

概算工事費【直立消波ブロック(TWシングルタイプ)式(1m当り)】

概算工事費 ¥509,000

工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
本体工							453,480	
	直立消波ブロック	製作	NS-0-15	ヶ	0.20	391,800	78,360	上段用
	同上据付	水中		ヶ	0.20	57,100	11,420	
	直立消波ブロック	製作	NS-0-15	ヶ	0.20	391,800	78,360	上段用
	同上据付	水中		ヶ	0.20	57,100	11,420	
	直立消波ブロック	製作	LS-0-15	ヶ	0.20	508,500	101,700	上段用
	同上据付	水中		ヶ	0.20	89,800	17,960	
	直立消波ブロック	製作	LS-0-15	ヶ	0.20	416,100	83,220	下段用
	同上据付	水中		ヶ	0.20	71,800	14,360	
	底版塊	製作		ヶ	0.20	233,900	46,780	
	同上据付	水中		ヶ	0.20	49,500	9,900	
上部工							55,700	
工事費							509,180	

概算工事費【直立消波ブロック(CSブロック)式(1m当り)】

概算工事費 ¥645,000

工種	種別	細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
本体工							572,440	
	直立消波ブロック	製作	H15-25-0	ヶ	0.63	158,400	99,000	
	同上据付	水中		ヶ	0.63	41,700	26,063	
	直立消波ブロック	製作	H15-25-0	ヶ	0.63	158,400	99,000	
	同上据付	水中		ヶ	0.63	41,700	26,063	
	直立消波ブロック	製作	H15-25-0	ヶ	0.63	158,400	99,000	
	同上据付	水中		ヶ	0.63	41,700	26,063	
	直立消波ブロック	製作	H15-25-0	ヶ	0.63	158,400	99,000	
	同上据付	水中		ヶ	0.63	41,700	26,063	
	底版塊	製作		ヶ	0.31	184,400	57,625	
	同上据付	水中		ヶ	0.31	46,600	14,563	
上部工							72,100	
工事費							644,540	

海水の鉛直混合促進

垂下版に先端に生ずる渦流れに気泡を取込むことによりエアレーションが促進できます。

また、渦流れにより生ずる鉛直方向の循環流により底層に滞留した水塊を水面に運ぶことにより水質浄化を促進します。

数値波動水路による流況シミュレーション

製作狀況（準備～型枠組立）

製作狀況（組立～配筋）

製作状況（組立～天端均）

製作状況（転置）

据付状況

完成

港口側開口部

港奥側開口部

利用状況

構造物前面の水面上に空隙がない。

トリウォールでは
潜り込み対策は不要

一般的な直立消波ブロックは潜りこみ対策が必要

工事名： 光漁港広域漁港整備工事

施設名： 西B防波堤L=102m(B工区L=55m)

タイプ： NS-0-10, NS-0-15

瀬戸内海の潮位差を利用した
汐通しと経済性から採用

工事名： 横浜地区地域水産物供給基盤整備工事

施設名： 北防波堤 (L=10m)

タイプ： NS-0-10

海水交換促進型防波堤

背面側

前面側

9

港口より蓄養水面
に外海水を導入す
る事を期待できま
す。

蓄養施設の
新設に際し、

防波堤を海
水交換促進
型とすること
で、

蓄養により汚
れた海水を
直接港外に
排出し、

源氏が浦漁港 入射波高・通水部流速測定 (H20.12.10~22)

通水部に設置した流速計

防波堤沖(北側)50m付近に設置した
波高計

測定期間中の波浪条件

	期間内最大値	期間内最小値	期間内平均値
$H_{1/3}$	0.99m	0.17m	0.38m
$T_{1/3}$	4.90sec	1.30sec	2.55sec

	時間換算導水量 (m ³ /h)													
	12月10日	12月11日	12月12日	12月13日	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	12月19日	12月20日	12月21日	12月22日	
0時		-148.03	-250.37	-695.30	-48.50	-179.02	-153.79	-261.89	-89.14	-470.23	-236.02	-221.69	-151.01	
1時		-388.27	-475.01	-475.06	-195.94	-54.91	-128.90	-60.67	102.94	-735.02	-455.69	-231.74	-424.10	
2時		-189.26	-629.95	-419.04	110.90	-141.89	-83.76	-191.28	2.40	-310.10	-410.95	-127.75	-598.90	
3時		-183.38	3.07	-883.49	86.98	-103.66	-65.54	77.35	-39.29	-239.35	-565.75	-58.75	-501.53	
4時		-76.37	-564.72	-439.32	-60.41	36.94	-158.06	-260.47	-175.06	-501.29	-428.26	-164.23	-272.33	
5時		-228.22	-196.32	-419.93	6.22	-58.94	-215.95	-56.28	-91.03	-436.06	-576.05	-108.12	-272.40	
6時		-24.98	-686.52	-261.12	-59.16	-320.45	-161.26	33.10	-96.55	-270.74	-234.77	-339.70	-325.99	
7時		-216.53	-536.88	-296.50	32.14	-156.38	-215.30	-186.26	-294.98	-252.60	-417.98	-239.47	150.65	
8時		-81.31	-275.76	-102.65	-57.41	-140.09	-176.35	-127.82	-132.58	-85.66	-218.40	-227.90	-144.98	
9時		-88.15	-595.15	94.87	-36.50	93.12	-26.14	-102.00	-257.38	-360.41	-344.76	-205.70		
10時	-152.42	-446.50	-732.96	8.76	0.67	-202.70	-120.50	8.14	-259.49	-265.32	-292.46	-94.10		
11時	80.98	-19.56	-744.62	85.44	-278.23	-144.24	-204.00	-17.38	-229.06	-222.53	-165.14	-28.13		
12時	92.23	130.75	-401.54	78.34	-3.82	-101.64	-80.76	-85.25	-96.84	-214.06	-552.89	-89.40		
13時	-111.58	-311.40	-410.98	-124.97	8.14	23.21	-40.68	-16.30	-94.75	-416.88	-371.62	-123.72		
14時	-109.13	-160.94	-498.38	-71.93	38.42	-184.80	44.90	-74.98	-261.46	-207.36	-355.82	-415.27		
15時	-94.03	-449.23	-733.58	-113.47	30.43	-360.98	26.30	-210.55	-100.70	-224.90	-726.22	-530.90		
16時	-161.35	-1334.33	-566.33	-229.58	-59.11	-231.77	-54.82	-35.30	-314.40	-324.05	-94.94	-296.90		
17時	-144.53	-855.31	-1092.34	-158.40	56.40	-397.18	20.88	-133.32	-295.08	-302.35	-272.78	8.16		
18時	-246.41	-357.53	-501.53	16.06	-50.38	-83.66	-5.54	-47.16	-118.80	-73.75	111.31	-544.32		
19時	-283.70	-226.85	-939.36	-159.12	-87.36	-190.20	-107.11	-228.65	19.94	-38.74	-283.58	-92.57		
20時	-183.55	-313.34	-1174.39	-86.47	-33.86	-153.17	-69.24	1.56	-272.93	-155.83	-322.20	-403.63		
21時	-862.87	-586.58	-796.22	-356.18	-139.30	-267.77	-60.96	-69.05	-211.42	85.94	-334.32	-29.52		
22時	-530.90	-58.10	-532.80	-156.46	-173.04	-75.62	-205.54	47.26	-136.94	-265.25	-443.83	-344.88		
23時	-474.29	-357.74	-665.26	-140.42	-442.99	-85.01	-27.67	-114.38	-274.42	-466.22	-709.85	-222.79		
24時間合計 (m ³ /日)	-5454.10	-6971.18	-13997.90	-5305.94	-1355.71	-3480.82	-2269.80	-2111.59	-3717.00	-6752.76	-8702.98	-5133.05	-6774.91	

測定期間平均導水量
-5540.60 m³/日

背後水深3mの水域に対し、約50m四方の水を一日で交換

二次元造波水路における反射率・透過率・通水部導水量と波長の関係

通水部流速(m/s): 沖向きがマイナス

海水交換促進型防波堤に関し、得られた知見と今後の課題

流速計データに見られる長周期振動は、波高計のデータでも観測されている。導水量を正確に評価するためには、長周期波成分の周期・波高を把握し、1周期当りの導水量を算定する必要があるものと思われる。(現在作業中)

源氏が浦漁港における調査期間中の入射波はの卓越波向きは、WNW(入射角67.5度)という斜め入射波であったが十分な導水量が確認できた。

源氏が浦漁港においては周期3秒～4秒・波高50～80cm程度の常時波浪による海水交換を期待し、設計を行ったが現実には長周期波(振動)による導水効果の方が大きなものとなっている。

港内海水の循環促進機能を備えた波除堤の提案

制限事項

係留施設として使用する場合

前面垂下版の喫水が十分に確保できないとき

船舶の安全上使用不可

制限事項

水深が浅く、碎波した波が作用する場合、共振現象が発生せず、消波効果が得られない